



報道関係者各位

2019年4月19日(金)
NPO 法人日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカー体験型授業「スポ育」2018年度集計 458件・15,736人が体験し、累計体験人数が131,166人に

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会(以下、JBFA)は、小・中学生を対象とした体験型授業「スポ育」の2018年度分の集計を終え、昨年4月から今年3月末までに、458件(90分の1コマを1件とする)、15,736人が参加したことをご報告します。事業を開始した2010年9月から累計で13万人を超え、2019年3月までに3,092件、131,166人が体験しました。

「スポ育」は、パラリンピック競技であるブラインドサッカーの要素を用いたダイバーシティ(多様性)教育プログラムです。内容は講演会や通常の体験会とは異なり、1件あたり90分、20名から50名までの参加を基本とし、子ども達全員が視覚に障がいのあるブラインドサッカー選手と触れ合いながら、視覚をアイマスクで閉じた状態でさまざまなワークショップを行います。実施先からは、障がい者の理解や多様な個性の尊重、相手の立場に立った声の掛け方などへの気づきを生み出した、子ども達がボランティアについて考え直すきっかけになった、等の評価をいただいております(実施先からの感想は3枚目にあります)。

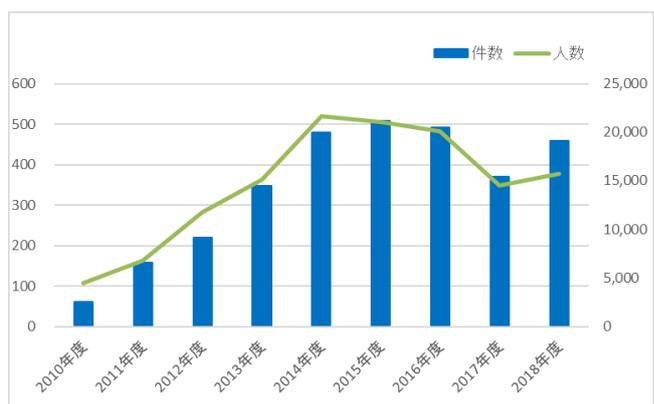
本事業は、2019年4月現在、9社のパートナー企業のサポートにより原則無料で実施しています。2018年度は、東北地方での「スポ育」活動拡大を目的に宮城県でコルジャ仙台ブラインドサッカークラブ協力による「スポ育」を開始し、宮城県での実施件数を前年度の3件から7件へと増やしました。

また、2015年秋からは、約14万人が取得している民間資格「サービス介助士」を育成・認定している公益財団法人日本ケアフィット共育機構と事業提携し、視覚障がい者、聴覚障がい者、車いす利用者など、お手伝いが必要とされる人へのホスピタリティあふれる介助の方法を正しく学ぶ授業「おも活」(おもてなし・おもいやり活動の略)も実施しています。スポ育を通して楽しく障がい者と出会い、障がい者への見方が変わった子ども達に「おも活」で介助方法を学んでもらうこれまでにない教育手法で、思いやりの心や考え方などの広がりにつながった、子ども達が今後の生活へ活かそうと意欲が湧いた、と評価をいただいております。スポ育実施校向けに、2015年度は11件、2016年度は21件実施、2017年度は11件、そして2018年度は12件実施致しました。

2018年度のスポ育は、受け入れ可能な件数を大きく上回る申し込みをいただきましたが、派遣する講師の数やスケジュールなど調整が難しく、お待ちいただくかお断りする状況となりました。ご要望に応えるためには、講師を務める障がい者アスリートの養成と雇用が急務となっており、より多くの企業・団体からのサポートを必要としているのが現状です。JBFAでは、一人でも多くの子ども達がスポ育を体験できるよう、これからも真摯にこの活動に取り組んでまいります。

<スポ育実施件数および体験者数の推移>

期間		件数	人数
2010年9月～2011年3月	2010年度	61	4,509
2011年4月～2012年3月	2011年度	157	6,782
2012年4月～2013年3月	2012年度	220	11,754
2013年4月～2014年3月	2013年度	347	15,081
2014年4月～2015年3月	2014年度	479	21,617
2015年4月～2016年3月	2015年度	508	21,008
2016年4月～2017年3月	2016年度	491	20,130
2017年4月～2018年3月	2017年度	371	14,549
2018年4月～2019年3月	2018年度	458	15,736
累計		3,092	131,166



2018年度の「スポ育」活動実績

<地域別>

<月別>

年	単位 月	コマ 件数	人数 人数	
2018年	4月	10	379	
	5月	45	1,604	
	6月	42	1,400	
	7月	25	818	
	8月	15	495	
	9月	61	2,147	
	10月	73	2,441	
	11月	68	2,321	
	12月	37	1,262	
	2019年	1月	48	1,634
		2月	28	1,045
		3月	6	190
総計		458	15,736	

<学年別>

単位 学年	人 人数
小学3年生	1,162
小学4年生	8,282
小学5年生	2,181
小学6年生	1,065
中学1年生	1,164
中学2年生	1,080
中学3年生	393
高校1年生	83
高校2年生	58
高校3年生	68
特別支援学級	117
小学生	37
高校生	46
総計	15,736

都道府県	単位 市区町村	コマ 件数	人 人数
宮城県	仙台市	5	195
	その他	2	42
東京都	あきる野市	8	277
	稲城市	2	92
	葛飾区	6	245
	江戸川区	18	739
	江東区	6	170
	港区	18	646
	渋谷区	4	104
	昭島市	5	222
	新宿区	31	946
	杉並区	12	410
	世田谷区	4	207
	清瀬市	3	101
	西多摩郡	1	62
	西東京市	13	466
	青梅市	2	102
	足立区	28	963
	大田区	5	175
	中央区	4	134
	中野区	10	350
	町田市	17	637
	調布市	6	194
	東久留米市	4	150
	八王子市	8	284
板橋区	12	437	
品川区	53	1,708	
府中市	2	64	
武蔵村山市	3	87	
武蔵野市	3	71	
文京区	37	1,182	
豊島区	3	98	
北区	6	198	
墨田区	3	106	
目黒区	8	287	
立川市	6	225	
練馬区	15	458	
神奈川県	横浜市	16	569
	川崎市	17	616
	藤沢市	3	95
埼玉県	さいたま市	1	22
	戸田市	3	119
	所沢市	2	50
	川越市	1	35
	朝霞市	3	118
千葉県	千葉市	4	172
	流山市	2	82
	その他	5	137
大阪府	大阪市	22	744
	その他	1	23
兵庫県	神戸市	3	78
	その他	1	11
その他		1	31
総計		458	15,736

実施先からの感想の例

「障がいのある人のイメージも変わったし、友達とのチームワークも高まったと思います。」

(大阪市 小4)

「最初は視覚障がい者は一人じゃできないことがたくさんあると思ったけど、ブラインドサッカーを通して、一人でできることはたくさんあるし、相手の気持ちを考えることがとても大切だと知りました。相手の気持ちを考えることは、視覚障がい者じゃない人にも大切なことだと思いました。」

(大阪市 中2)

「はじめ、視覚障がいをもった人がサッカーなんてできないだろうと思っていましたが、今回視覚障がいを持った人にも、それぞれ個性があると分かり、すごいなと勉強になりました。また、ボランティアとは何か、考え直すきっかけになりました。ありがとうございました。」

(東京都 中2)

「視覚障がいの人にとって、声は大切なんだと思いました。町で視覚障がいの人に会ったら、助けてあげれるといいなと思います。」

(仙台市 小4)

「仲間とパスなどをしたときには、どこに仲間がいるのかなど分からなかったけど、仲間がちゃんと手で音を鳴らしてくれたり、音を出して『こっちだよ。』と声を出してくれたおかげで、あまり迷わずに進めました。やっぱり仲間との協力や声かけが大切なんだなと思いました。」

(千葉市 小6)

「最初にアイマスクをつけた時は不安でいっぱいでした。けれど友達がゴールなどを分かりやすく教えてくれたから、不安もなくなりました。私はブラインドサッカー体験を通してコミュニケーションの大切さを学びました。」

(東京都 小5)

「子どもたちは事前学習も含め、ブラインドサッカーに興味深く関心をもったようです。『知らないことが、たくさんあった！』『スポーツができるなんすごい！』などと驚きと感動の多い体験となりました。来ていただいた選手には、子供達とたくさん関わっていただき、とても学びの多い時間となりました。この体験を通して、子供達には、相手の気持ちを考え、思いやりのある心を持ち続けられるように私たちも見守っていきたいと思います。」

(大阪市 小学校教諭)

本件に関するお問い合わせ

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会 事務局

E-mail: media@b-soccer.jp 協会ウェブサイト: <http://www.b-soccer.jp>

住所: 〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 ペアーズビル 3階

電話: 03-6908-8907 FAX: 03-6908-8908